

アラル海流域の 生態環境と エコツーリズムの 可能性

ECOLOGICAL ENVIRONMENT
OF THE ARAL SEA BASIN AND
ITS ECOTOURISM POTENTIAL

2026年3月19日 (木)

15:00~17:00

@和歌山大学西1号館会議室



概要 (日本語・露語、露和通訳有)

「20世紀最悪の環境破壊」とも言われてきたアラル海の悲劇。1991年に社会主義国家ソ連が崩壊し、流域五カ国（ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン）が独立して20年以上経過した現在、今ある生態環境を活かしながら、持続可能な開発をどのように実現していくのかが問われています。エコツーリズムの発展というのも一つの方向性になります。本セミナーでは、鳥取大学乾燥地研究センター共同研究「アラル海救済をめぐる国際協力の展開とアラル海の将来」のメンバーが、2年間の研究成果を発表し、アラル海流域の未来について考えます。

スピーカー／イベントスケジュール

- 1 15:00~15:05 開会の辞、発表者紹介
- 2 15:05~15:30 地田徹朗（名古屋外国語大学）「カザフスタン領アラル海の生態環境とジオパーク認定の可能性」
- 3 15:30~15:50 タルガルバイ・コヌスバエフ（カザフスタン共和国動物学研究所）
- 4 15:50~16:10 飯田次郎（和歌山大学）「アラル海地域に対するJICAの活動ー持続可能な観光開発に向けて」
- 5 16:10~16:30 倉石東那（東京大学博士課程）「ウズベキスタンによる独立後の水資源管理」
- 6 16:30~17:00 質疑応答・総合討論



会場(対面)



Online(Zoom)

対面とZOOMでのハイブリッド形式で開催します。
お申込みはこちらから。

主催：和歌山大学国際観光学研究センター
共催：鳥取大学乾燥地研究センター、JSPS科研費「国際河川を巡る「協調」と「対立」：規範の形成・実施と紛争構造に関する学際的研究」(24H00141)